

2022年6月2日

スズキ、インドでの再生可能エネルギー由来の電力使用を拡大



SMG 向けの発電施設 (ReNew 社提供)

スズキは、カーボンニュートラルの実現に向け、インド四輪工場において、再生可能エネルギー由来の電力使用を拡大します。

スズキのインド生産子会社スズキ・モーター・グジャラート社 (以下、SMG) は 2022 年 5 月、スズキグループとして初めて、電力事業者が SMG 敷地外に設置する発電設備から電力を購入するオフサイトコーポレート PPA※の仕組みを利用して、再生可能エネルギー由来電力の調達を開始しました。※PPA は、Power Purchase Agreement (電力購入契約) の略。

発電設備は風力と太陽光のハイブリッド型 (発電出力 17.6MW) で、インド再生可能エネルギー事業者大手 ReNew Power Private Limited が SMG 専用として設置しました。今回の取り組みにより、CO₂排出削減量は年間約 59,000 トンを見込みます。

尚、SMG が 2018 年に敷地内に設置した太陽光発電設備では、0.5MW を発電しています。

スズキのインド子会社マルチ・スズキ・インディア社においては、2014 年にマネサール工場敷地内に太陽光発電設備を導入して以来、再生可能エネルギー由来の電力を活用しています。2021 年 9 月に、マネサール工場敷地内の太陽光発電設備 (20MW) の拡張を行い、発電出力を 26.3MW まで拡大しました。今回の拡張による CO₂排出削減量は年間約 20,000 トンを見込みます。



マネサール工場のモータープールの頭上に設置したソーラーパネル

スズキは中期経営計画において、2050 年での製造時 CO₂排出量ゼロの実現を目指しています。今後も、再生可能エネルギーの利用拡大、省エネルギーの推進、日々の改善活動等を通じて、CO₂排出量を削減してまいります。